

【新潟県メディア連携協議会】



河川の増水・氾濫に関する呼びかけ



令和3年3月2日

国土交通省
北陸地方整備局、新潟地方気象台



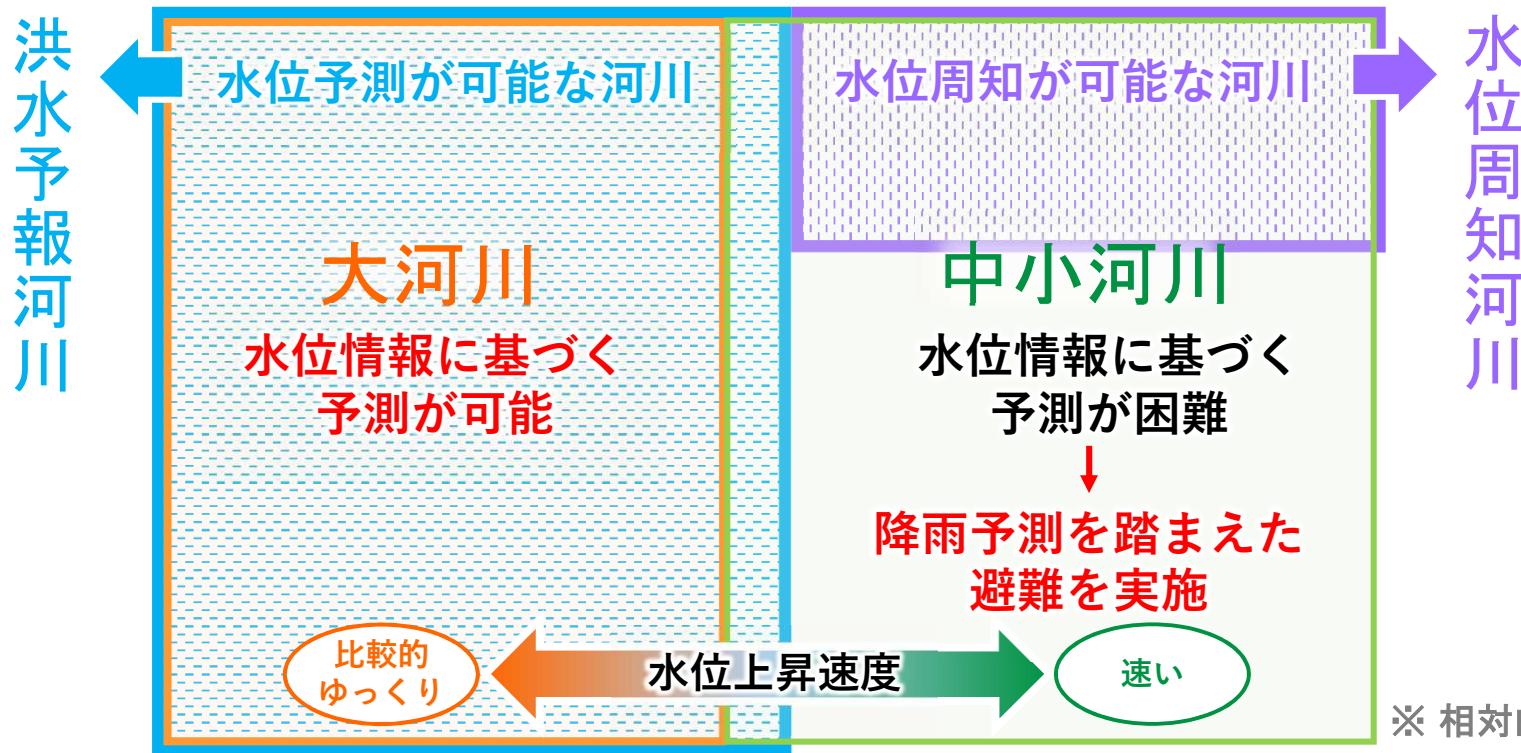
河川とは

- 河川の増水・氾濫の危険を伝える情報
- 河川の増水・氾濫の予測手法
- 警戒呼びかけや伝え方の工夫
- 今後の取組

河川とは

～大河川、中小河川；洪水予報河川、水位周知河川～

- 大河川 局所的な豪雨には比較的強いが、広範囲に大雨が長時間続くと徐々に水位が上昇し、危険な状態になる。**水位情報をもとに避難情報の発令や避難行動をとりやすい。**
- 中小河川 降雨と同時か直後に増水し、危険な状態になる可能性がある。**水位情報を待たず、雨の情報から避難行動をとる必要がある。**



河川とは

～地域ごとの雨の降り方と、河川への影響の違い～

- 地域の降雨特性に応じて設定された計画降雨等に基づき、河川は施設整備されている。
- 東北地方では、24時間で流域平均※200ミリの降雨量は大ごと。
- 近畿や四国、九州（特に太平洋側）では、24時間で流域平均400ミリでも珍しくはない。

※ 雨が流れ込む範囲（集水域）を、河川の流域という。

流域平均雨量は、流域に降った雨量をその流域全体で平均した値。

■物部川（平成30年7月豪雨）

高知県を流れる物部川では流域平均雨量が12時間で約300mmに達し、危険な水位まで上昇したものの人的被害や家屋被害は発生せず。



写真：四国地方整備局

■最上川（令和2年7月豪雨）

山形県を流れる最上川では流域平均雨量が48時間で約150～200mmの降雨があり、本川・支川の氾濫により多くの家屋が浸水。



写真：東北地方整備局 3

- 河川とは

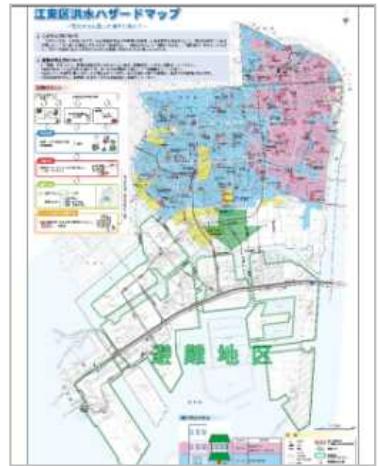
- 河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

- 河川の増水・氾濫の予測手法

- 警戒呼びかけや伝え方の工夫

- 今後の取組

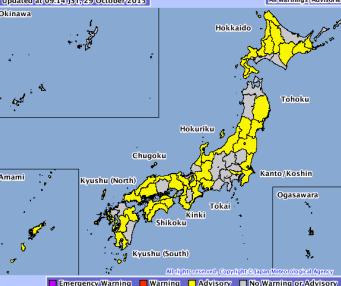
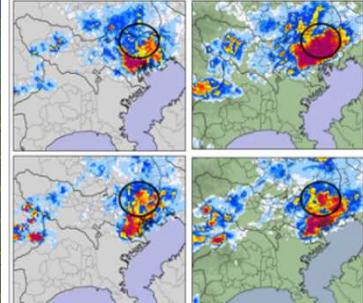
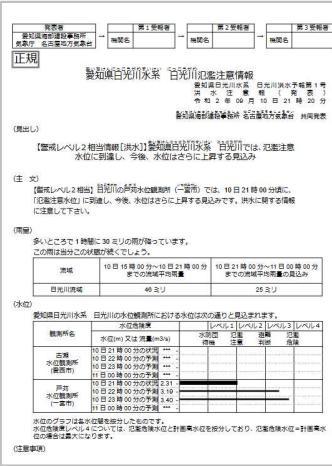
河川の増水・氾濫の危険を伝える情報 ～情報いろいろ～



平時

数日前～

数時間前～



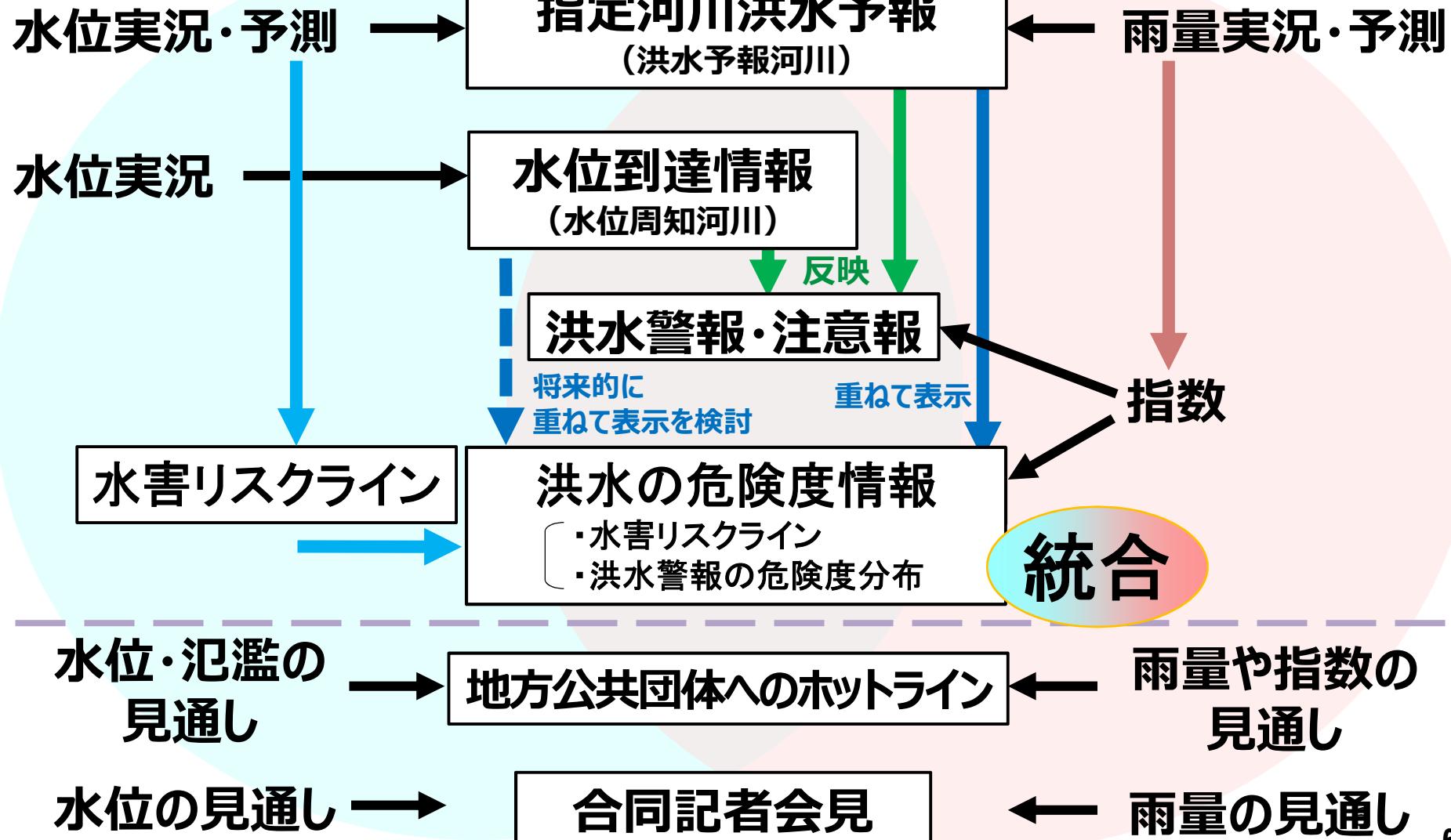
河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

～情報の種類（河川に関する情報）～

河川事務所と気象台の連携による情報発信

水位

雨量



河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

～情報の種類（河川に関する情報）～



河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

～指定河川洪水予報～

洪水予報の標題(種類)	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
○○川氾濫発生情報 (洪水警報)	氾濫の発生 (氾濫水の予報※)	氾濫水への警戒を求める段階 【警戒レベル5相当】
○○川氾濫危険情報 (洪水警報)	氾濫危険水位(レベル4水位) に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を 求める段階 【警戒レベル4相当】
○○川氾濫警戒情報 (洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位 (レベル4水位)に到達が見込 まれる場合、あるいは避難判 断水位(レベル3水位)に到達 し、更に水位の上昇が見込 まる場合	避難準備などの氾濫発生に対する 警戒を求める段階 【警戒レベル3相当】
○○川氾濫注意情報 (洪水注意報)	氾濫注意水位(レベル2水位) に到達し、さらに水位の上昇 が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める 段階 【警戒レベル2相当】

※氾濫水の予報

平成17年7月の水防法および気象業務法の改正により、従来の洪水のおそれがあるときに発表する水位・流量の予報に加え、河川が氾濫した後においては浸水する区域及びその水深の予報を行うことになった。平成31年3月現在では、利根川及び阿武隈川の一部の区間において、氾濫水の予報を実施。

河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

～河川の増水・氾濫の危険を伝える際の、基準となる水位～

河川ごとに、堤防等の高さに基づいて設定

避難完了



避難指示等
の発令



危険箇所設定断面

計画高水位

リードタイム
(避難時間等)

氾濫危険水位

避難判断水位

氾濫注意水位

計画高水位、または
「リードタイムから
設定される水位」
の低い方から設定

計画高水位

この水位以下で洪水を流下させることができるよ
う設定する水位。堤防の設計の際、計画堤防高は
計画高水位に余裕高を考慮して決められる。 9

河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

～「川の防災情報」水位状況を把握～

国土交通省 川の防災情報

気象×水害・土砂災害情報マルチモニタ

情報の見方 水位雨量 カメラ レーダ ダム 水質 河川 高水・雪 予警報 検索 Q&A リンク 操作方法 サイトマップ 水防関係

全国 北海道 東北 関東 北陸 中部 近畿 中国 西日本 九州 沖縄 未設定

お知らせがあります。

北陸

雨の降っている地域 (XRAIN)

気象情報・注警報【東部】 気象情報・注警報【西部】 河川カメラ(一地域のカメラへ)

関連サイト

国土交通省 川の防災情報

災害情報スマートフォン

Disaster Information Portal

国土交通省 川の防災情報

水位観測所一覧表

情報の見方 情報の見方

水位雨量 カメラ レーダ ダム 水質 河川 領導所 お知らせ

海岸・雪 予警報 検索 Q&A リンク 操作方法 サイトマップ 水防関係

北陸 / 新潟県

川の水位情報

氾水の危険性が高まっている河川

所在県 水系・河川名 本底 (m)

前へ 1 / 6ページ 次へ

基準値を超過している河川はありません。

前へ 1 / 6ページ 次へ

観測所名 水系名 河川名 水位 (m) 基準水位(m) 所在地

水防回 備機 河濱 注意 判断 河濱 危険

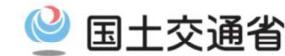
観測所名	水系名	河川名	水位 (m)	基準水位(m)	所在地	
鷹ノ巣	荒川	荒川	45.23	48.60	新潟県岩船郡関川村大字内渉	
葛籠山	荒川	荒川	0.21 ↓	3.00	6.40	新潟県村上市大字葛籠山
上関	荒川	荒川	2.94 →	3.60	6.60	新潟県岩船郡関川村大字上関
花立	荒川	荒川	1.36 ↓	-	-	新潟県村上市大字小岩内
上川口	大石川	大石川	1.50 →	-	-	新潟県岩船郡関川村大字上川口
大石	荒川	大石川	1.85 →	-	-	新潟県岩船郡関川村大字大石
桂	その他	その他	-0.34	-	-	新潟県岩船郡関川村大字桂
津川	阿賀野川	阿賀野川	48.99	50.00	52.69	新潟県東蒲原郡阿賀町大字津川字下町
馬下	阿賀野川	阿賀野川	16.99 →	19.65	20.15	新潟県五泉市馬下
満願寺(右岸)	阿賀野川	阿賀野川	5.80	6.50	8.30	新潟県新潟市秋葉区満願寺4100
横越	阿賀野川	阿賀野川	閉局	-	-	新潟県新潟市江南区横越
胡桃山内水	阿賀野川	阿賀野川	閉局	-	-	新潟県新潟市北区高森
胡桃山外水	阿賀野川	阿賀野川	閉局	-	-	新潟県新潟市北区高森
満願寺(左岸)	阿賀野川	阿賀野川	3.67 →	5.80	6.50	新潟県新潟市秋葉区満願寺4100
松ヶ崎	阿賀野川	阿賀野川	閉局	-	-	新潟県新潟市北区松ヶ崎
通船山水門	阿賀野川	阿賀野川	0.88	-	-	新潟県新潟市東区通船山
新井郷川	新井郷川	新井郷川	閉局	-	-	新潟県新潟市北区新井郷川
兄弟堀	新井郷川	新井郷川	閉局	-	-	新潟県新潟市北区兄弟堀
新潟田川水門下流	阿賀野川	新潟田川	1.76	-	-	新潟県新潟市大字佐々木
折居川	阿賀野川	折居川	閉局	-	-	新潟県阿賀野市山倉
荒川川	阿賀野川	荒川川	閉局	-	-	新潟県新潟市中ノ通
大室	阿賀野川	安野川	10.99	11.64	12.03	新潟県新潟市大字七浦字横横14番地地先
金田町	阿賀野川	安野川	4.36	6.27	7.21	新潟県阿賀野市金田町6
松野	阿賀野川	早出川	50.25	-	-	新潟県五泉市大字松野宇浦井586
不動堂	阿賀野川	早出川	32.66	33.97	35.35	新潟県五泉市不動堂
善願	阿賀野川	早出川	11.61 →	12.80	14.00	新潟県五泉市善願
白川	阿賀野川	新谷川	36.31	39.63	41.13	新潟県東蒲原郡阿賀町大字白川字川口
常浪	阿賀野川	常浪川	55.30	57.90	58.40	新潟県東蒲原郡阿賀町大字常浪
広瀬	阿賀野川	常浪川	105.54	106.95	107.65	新潟県東蒲原郡阿賀町広瀬甲1277

※「気象情報・注警報」「洪水警報の危険度分布」「土砂災害危険度分布」は気象庁ホームページ
※「川の水位情報」は危機警戒閾値に対する水位超過情報を連携するホームページへリンクしています
※「アラート」は、市町村等が発表した避難勧奨などの災害警報情報を一覧表示するマルチアラート
※機能の情報には、無人観測所から読み取れてくるデータを観測機器上に表示しているものが含まれます
※水位情報には、気象情報を併せて確認してください。

河川の増水・氾濫の危険を伝える情報

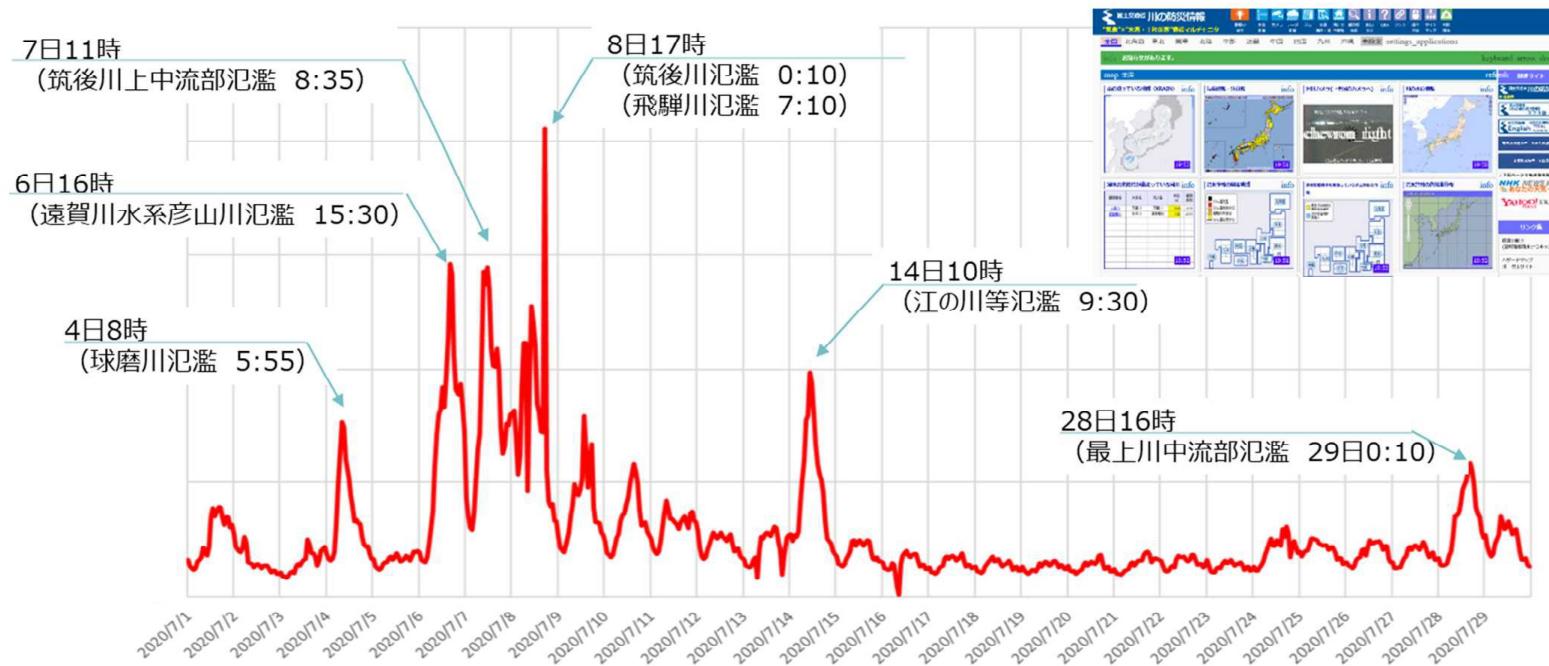
～「川の防災情報」水位状況を把握～

「川の防災情報」のアクセス状況(令和2年7月豪雨時)



- 令和2年7月豪雨時では、河川の氾濫情報の発生等に伴い、「川の防災情報」へのアクセス数が大きく増加。

一般向けPC版川の防災情報アクセス数状況（7月1日～29日）



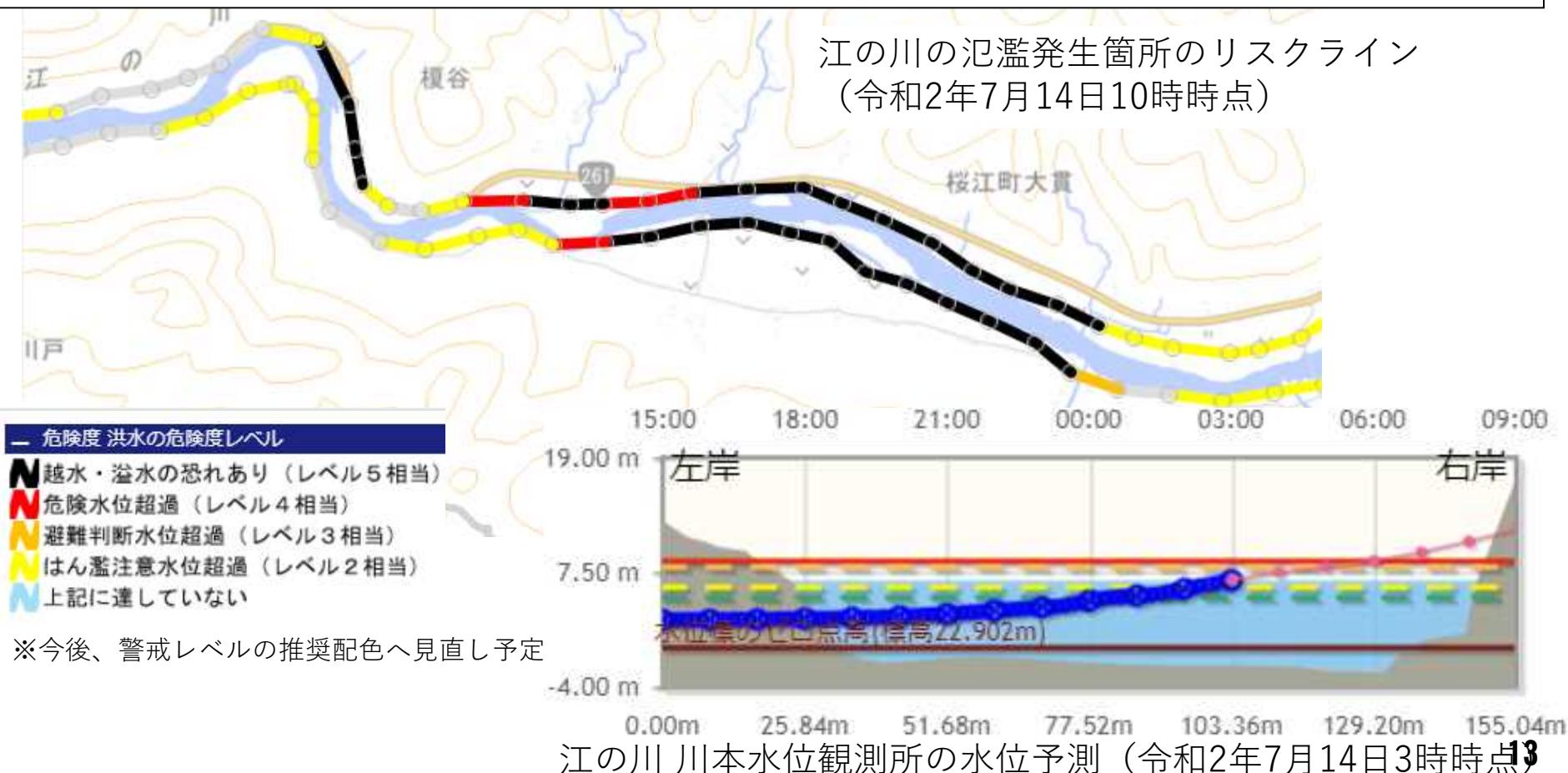
- 河川とは
- 河川の増水・氾濫の危険を伝える情報
- 河川の増水・氾濫の予測手法
- 警戒呼びかけや伝え方の工夫
- 今後の取組

河川の増水・氾濫の予測手法

～水位予測に基づく洪水害の危険度の共有～

水害リスクライン

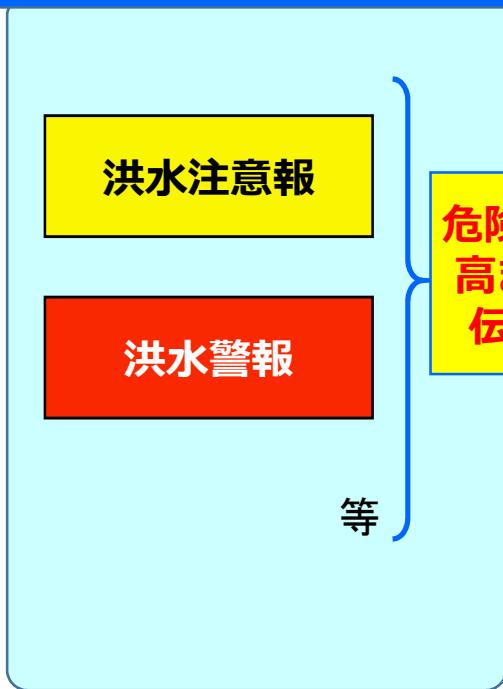
- 水位の実況や、現在の沿川のリスクを一般に公開。
- 地方公共団体等には、6時間先までの水位予測、及びこれに基づく沿川のリスクも提供。



河川の増水・氾濫の予測手法

～流域雨量指数の活用～

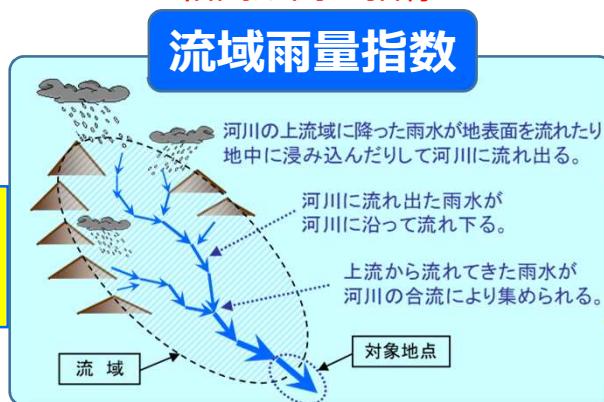
危険度の高まりを伝える情報



危険度が高まる場所の情報



市町村単位で警報等を発表

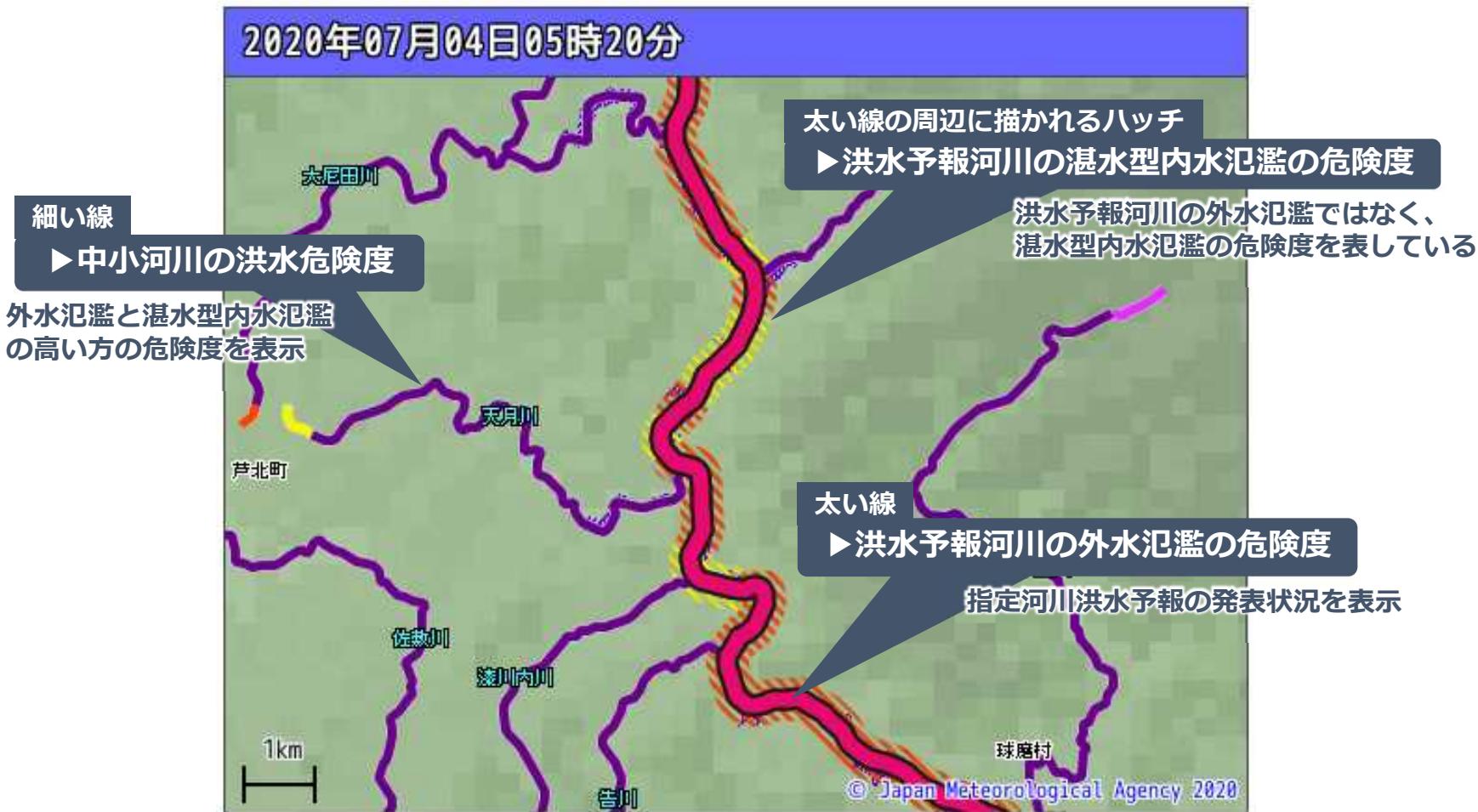


基準による判定結果を地図上の河川流路に着色

※全国の中小河川が対象

河川の増水・氾濫の予測手法

～洪水警報の危険度分布で表示される危険度～



大河川（指定河川）と中小河川の洪水危険度を一体的に表示

- 河川とは
- 河川の増水・氾濫の危険を伝える情報
- 河川の増水・氾濫の予測手法
- 警戒呼びかけや伝え方の工夫
- 今後の取組

警戒呼びかけや伝え方の工夫

【情報発表に加えた警戒呼びかけ①】

- ・ **ホットライン** ・・・ 雨量や水位予測等を用いて、早い段階で実施
河川事務所と気象台の間の情報共有
河川事務所、気象台から地方公共団体へ連絡
- ・ **水管理・国土保全局と気象庁の合同記者会見**
 - 大雨特別警報の警報等への切替後の警戒呼びかけ
(河川氾濫に関する情報の発表も)
 - 河川の増水・氾濫のおそれがある場合の事前の警戒呼びかけ
(台風第10号の接近の際に実施)

※地方整備局と地方気象台も同様に実施

警戒呼びかけや伝え方の工夫 ～ホットライン～

雨量等の気象情報

河川事務所

情報共有

気象台

水位等の見通し



地方公共団体



警戒呼びかけや伝え方の工夫 ～大雨特別警報の警報等への切替時の呼びかけ～

府県予報区内の一部又は全市町村の
警報への切替約数10分前

府県予報区内の全市町村の
警報への切替

本省庁による合同 記者会見



※ 地方によっては
地整・気象台の合同会見も実施。

気象台から 地方公共団体への ホットライン



大雨特別警報から 大雨警報へ切替

「河川氾濫に関する 情報」の発表



〇〇県の注意警戒事項

【警報に切り替え】大雨は峠を越えましたが、〇〇川、〇〇川、〇〇川等では氾濫が発生するおそれがあるため、洪水への一層の警戒が必要です。指定河川洪水予報や府県気象情報をご確認ください。土砂災害や浸水害、暴風、高波、高潮にも警戒してください。

=====

世田谷区 [継続]洪水、暴風警報
[特別警報から警報]大雨警報(土砂災害)
[解除]雷注意報

世田谷区	今後の推移(■警報級 □注意報級)										備考、 関連する現象	
発表中の 警報・注意報等の種別	12日	13日	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	
大雨 (土砂災害)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	土砂災害警報

令和〇年台風第〇〇号に関する東京都気象情報 第1号
令和〇年〇月〇日〇時〇分 気象庁予報部発表

大雨は峠を越え、大雨特別警報は警報に切り替わりますが、〇〇川、〇〇川、〇〇川等では氾濫が発生するおそれがあるため、洪水への一層の警戒が必要です。指定河川洪水予報をご確認ください。

〇〇川上流部洪水予報(臨時)
令和〇年〇月〇日〇時〇分
国土交通省 〇〇河川(国道)事務所
気象庁 〇〇地方気象台

「〇〇県の大雨は峠を越えたが、河川の増水、氾濫はこれから」

〇〇県の大雨は峠を越え、大雨特別警報は警報に切り替わりますが、[〇〇川の洪水はこれからも警戒が必要です] / 〇〇県、〇〇県などに降った大雨による洪水が、これから〇〇川の下流に到達します。天候が回復しても、氾濫が発生するおそれがあるため、洪水への一層の警戒が必要です。

■ 〇〇川上流部 では、氾濫発生情報(警戒レベル5相当情報)を発表中です。

河川名	水位観測所	水位状況	今後の見込み
堀川	井(〇県B市)	氾濫発生中	水位上昇中。まもなく最高水位
宇川	絵(〇県C市)	氾濫危険水位超過	水位上昇中
宇川	尾(〇県D市)	避難判断水位超過	水位上昇中
香川	木(〇県E市)	今後の水位に留意	水位上昇中

発表中の指定河川洪水予報は下記のサイトからご覧いただけます。
川の防災情報 <http://www.river.go.jp/>

警戒呼びかけや伝え方の工夫 ～台風第10号の際の事前呼びかけ～

- 特別警報級の勢力まで発達する見込みの令和2年台風第10号に、最大級の警戒を促すため、台風上陸前から水管理・国土保全局と気象庁の合同記者会見を実施。
- 記者会見では、台風第10号に伴う大雨による流域平均雨量の見通しが河川の能力を上回る規模であることを示しながら、暴風が来る前に早めに避難するよう呼びかけ。

＜対応の時系列＞

日付	日時	主体	台風位置
9月3日	17:00	水管理・国土保全局と気象庁	①
9月4日	11:00	水管理・国土保全局と気象庁	②
9月5日	14:00	水管理・国土保全局と気象庁	③
9月5日	20:00	気象庁	④
9月6日	9:30	気象庁	⑤

9月2日午前より共同取材等も実施して対応。

＜水管理・国土保全局と気象庁の合同記者会見＞

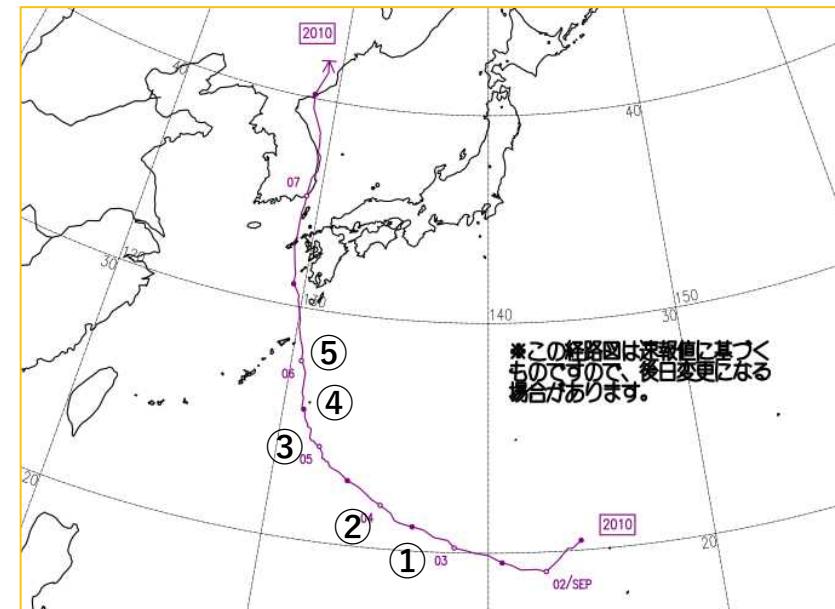


気象庁予報部 予報課長

『台風第10号は、今後特別警報級の勢力まで発達する見込み。記録的な大雨・暴風・高波・高潮となる恐れがあり最大級の警戒が必要。』

水管理・国土保全局 河川環境課長

『国管理の大きな河川を含め多くの河川で現状の整備水準を超える規模の雨量が予測されており、氾濫の危険性が高まっています。暴風が来る前に早めに避難してください。』



警戒呼びかけや伝え方の工夫

【情報発表に加えた警戒呼びかけ②】

- ・わかりやすい用語への見直し

水害・土砂災害に関する防災用語の改善検討（用語検討会）

- ・情報を発信する行政と、情報を伝えるメディアの連携

住民自らの行動に結びつく

水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト

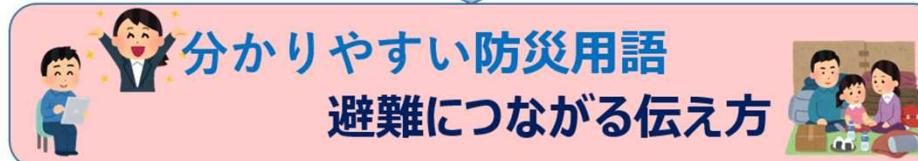
- ・地域毎の行政とメディアの連携

地域メディア連携協議会

警戒呼びかけや伝え方の工夫

～水害・土砂災害に関する防災用語の改善検討～

- 河川管理者等から提供される情報には、施設整備・管理のための用語、法令上の整理から成立した用語が多く、受け手の的確な判断や行動につなげるには、わかりづらい用語がある。
- 近年の災害や防災情報、社会、情報通信環境の変化等を踏まえ、洪水時等における防災情報に関する用語を吟味し、住民や報道機関等にわかりやすい防災用語・表現の見直しを実施。



警戒呼びかけや伝え方の工夫

～情報を発信する行政と、情報を伝えるメディアの連携～

○行政とメディアの関係者により、「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト」を設置し、各メディアが有する特性を活かした対応策、連携策に取り組んでいる。

プロジェクト参加団体

＜マスメディア＞

日本放送協会（NHK）、一般社団法人日本民間放送連盟
一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟

NPO法人気象キャスターネットワーク

オフィス気象キャスター株式会社

エフエム東京、株式会社文化放送

全国地方新聞社連合会

一般財団法人道路交通情報通信システムセンター（VICS）

＜ネットメディア＞

LINE株式会社、Twitter Japan株式会社

ヤフー株式会社

NTTドコモ株式会社、KDDI株式会社

ソフトバンク株式会社

＜行政関連団体＞

一般財団法人マルチメディア振興センター（Lアラート）

＜市町村関係者＞

新潟県見附市

＜地域の防災活動を支援する団体＞

常総市防災土連絡協議会

＜行政＞

国土交通省水管管理・国土保全局、道路局、
気象庁



第5回全体会議（R2.8.28開催）

住民自らの行動に結びつける新たな6つの連携プロジェクト ～受け身の個人から行動する個人へ～

課題1 より分かりやすい情報提供のあり方は

A：災害情報単純化プロジェクト～災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求～

水害・土砂災害情報統合ポータルサイトの作成、情報の「ワンフレーズマルチキャスト」の推進、
気象キャスター等との連携による災害情報用語・表現改善点検

課題2 住民に切迫感を伝えるために何ができるか

B：災害情報我がことプロジェクト～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～

地域防災コラボチャンネル（CATV×ローカルFM）、新聞からのハザードマップへの誘導、
マイ・ページ機能の導入、テレビ、ラジオ、ネットメディア等が連携した「マイ・タイムライン」普及

C：災害アリティー伝達プロジェクト

～画像情報の活用や専門家からの情報発信など切迫感アリティーの追求～

河川監視カメラ画像の積極的な配信、専門家による災害情報の解説、

E T C 2. 0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化

D：災害時の意識転換プロジェクト

～災害モードへの個々の意識を切り替えさせるトリガー情報の発信～

住民自らの避難行動のためのトリガー情報の明確化、緊急速報メールの配信文例の統一化

課題3 情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは

F：地域コミュニティー避難促進プロジェクト

～地域コミュニティーの防災力の強化と情報弱者へのアプローチ～

登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「逃げなきやコール」の提供、
「避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）」への情報提供支援

上記課題を具体化するために

E：災害情報メディア連携プロジェクト

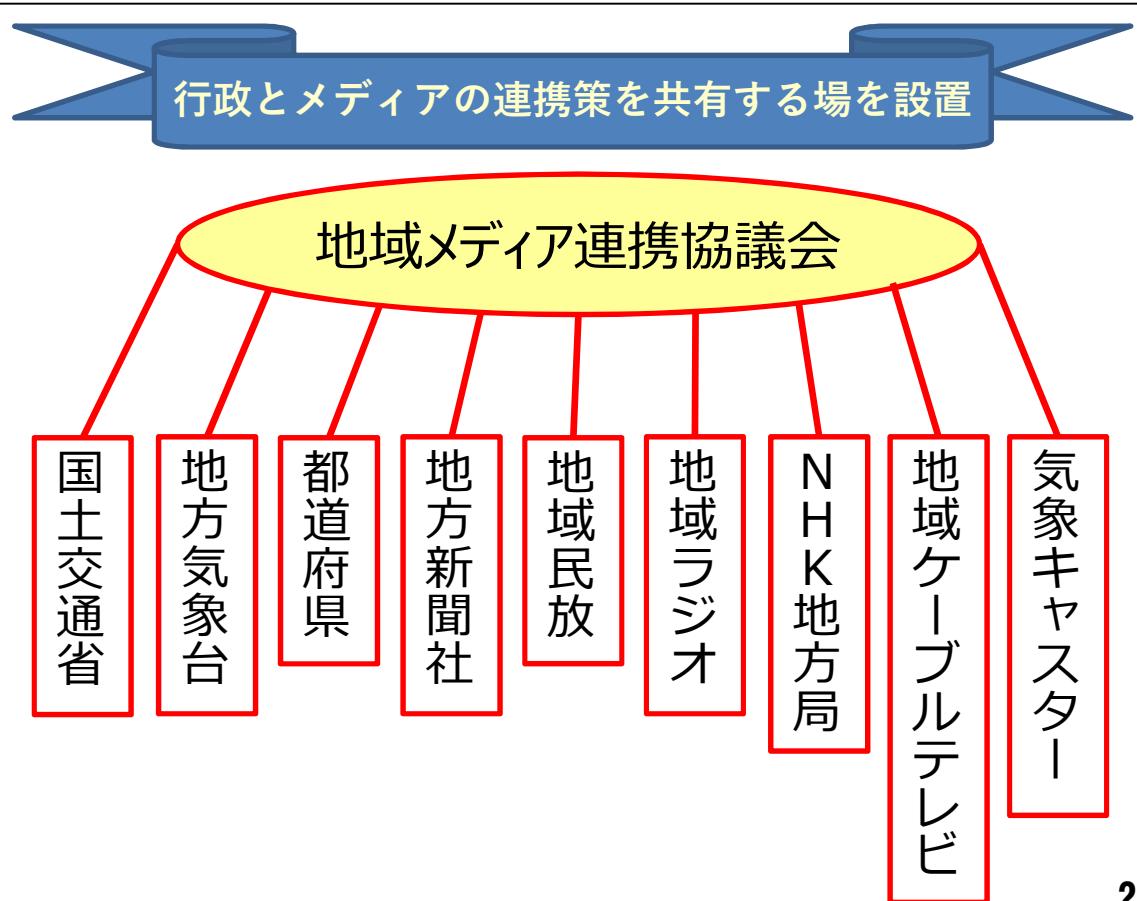
～災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進～

テレビ・ラジオ・新聞からのネットへの誘導（二次元コード等）、ハッシュタグの共通使用、
公式アカウントのSNSを活用した情報拡散

警戒呼びかけや伝え方の工夫

～地域毎の行政とメディアの連携～

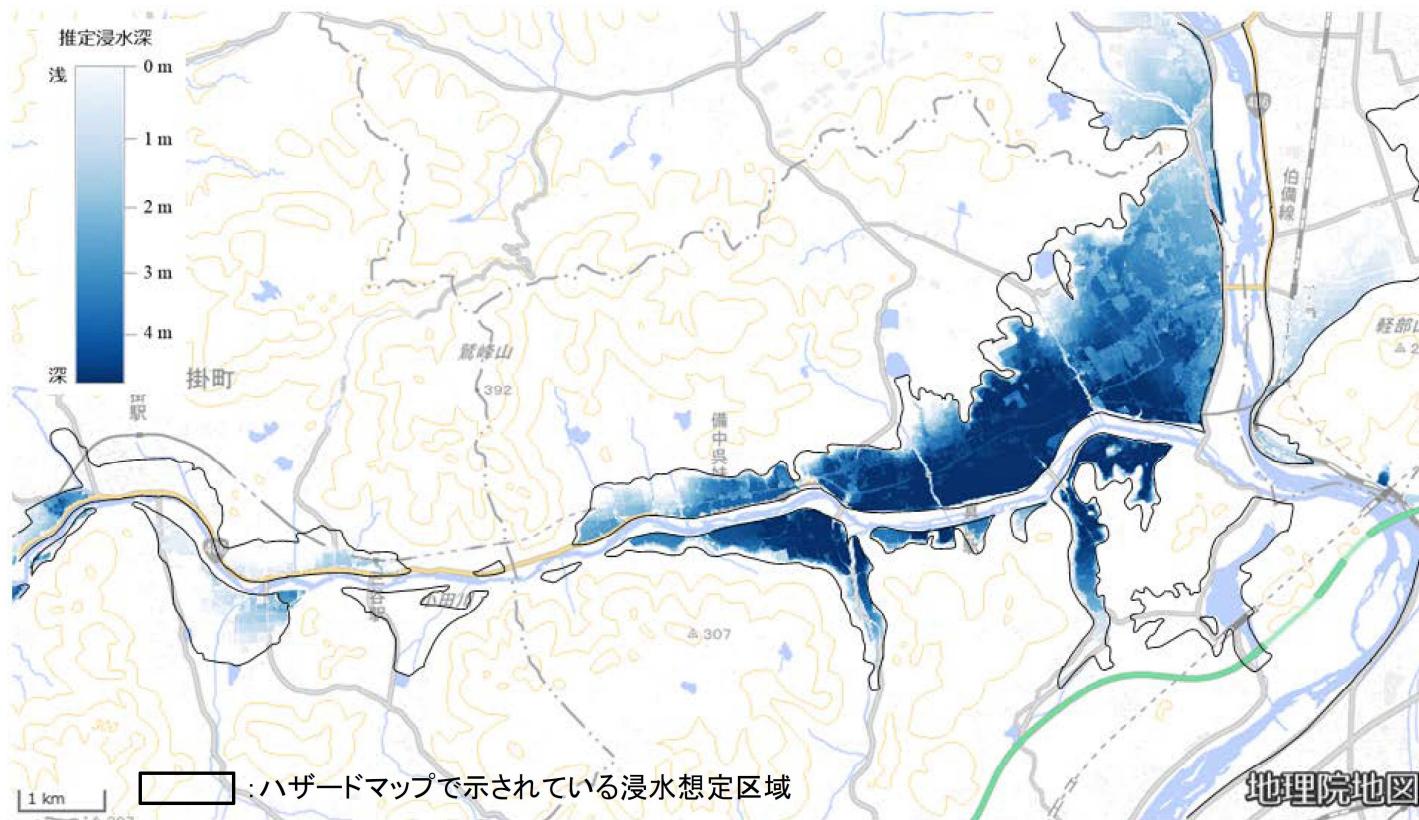
- 地域におけるメディア連携協議会を設置し、地域毎のメディア関係者（地方紙、地域CATV、地域ラジオ、NHK地方局、地域民放等）の参加の下、関係者の連携策と情報共有方策の具体化を検討するとともに、メディアも連携した防災訓練を実施し、地域の取組を強化する。



警戒呼びかけや伝え方の工夫 ～浸水状況とハザードマップ～

○ハザードマップの浸水想定区域と実際の浸水範囲は概ね一致

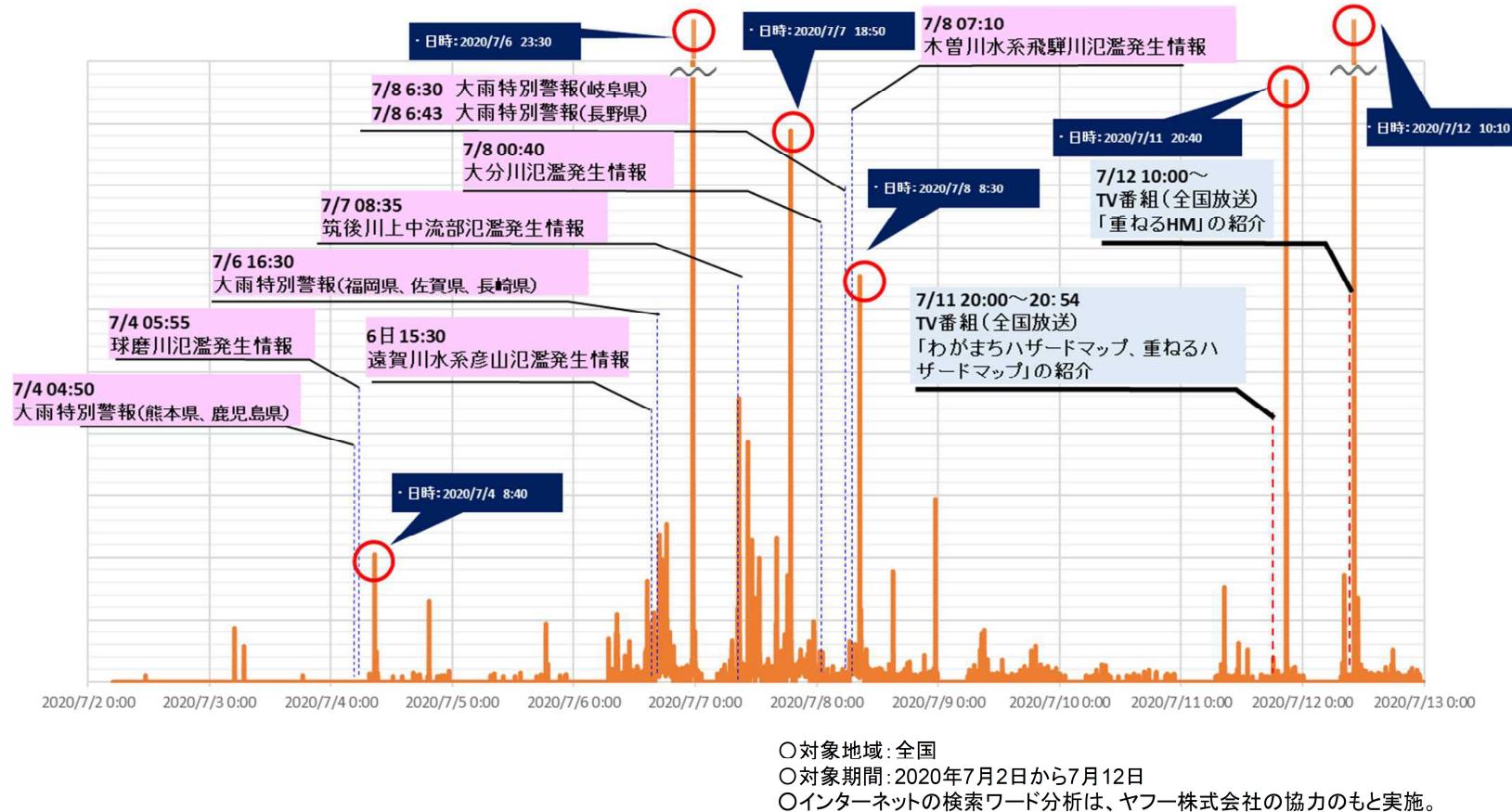
倉敷市真備地区の浸水状況とハザードマップとの比較



浸水推定段彩図(地理院地図(電子国土Web) 平成30年7月豪雨 浸水推定段彩図 空中写真判読版)、倉敷市真備ハザードマップ(倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップ(平成28年8月作成、平成29年2月更新))をもとに内閣府にて作成

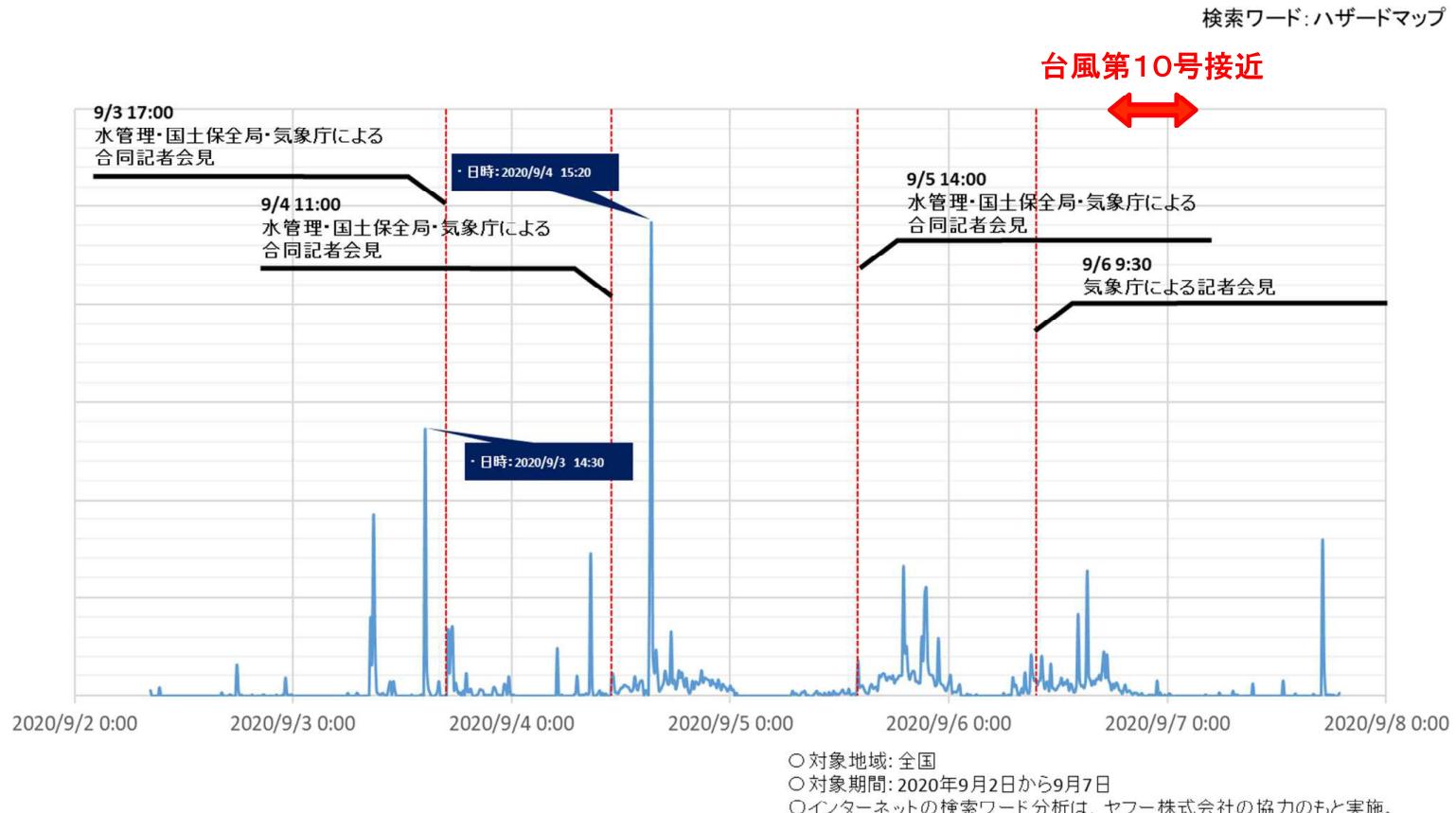
「ハザードマップ」の検索状況(令和2年7月豪雨時)

- 全国における「ハザードマップ」の検索数は、大雨特別警報や、氾濫発生情報の発表後、また、メディアでの紹介の後に増加。
- 発災前に「ハザードマップ」を確認してもらうために、事前の周知が重要。



「ハザードマップ」の検索状況(令和2年台風第10号時)

- 全国における「ハザードマップ」の検索数は、台風接近前に実施した合同記者会見等がメディアでも紹介されたことなどにより早い段階から増加。



簡易型河川監視カメラ画像のリアルタイム提供

- 洪水の切迫性をアリティをもって伝えるため、月明かり程度の明るさでも静止画の撮影が可能なカメラを開発し、全国の河川で人家や重要施設のある箇所などに設置を促進。
- これらカメラ画像を令和2年2月より「川の水位情報」ウェブサイトで公開。7月末時点で国及び都道府県合わせて5,900台のカメラ画像を公開中。

【配信イメージ】



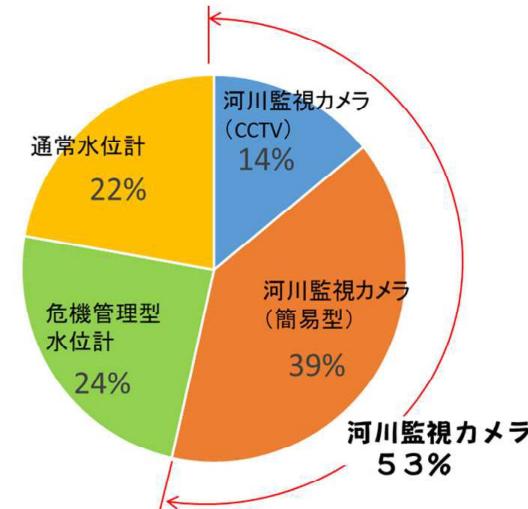
河川監視カメラの公表数



河川監視カメラ (CCTV)
約3,100台



河川監視カメラ (簡易型)
約2,800台
New!
ふちが緑



令和2年7月豪雨時の
「川の水位情報」サイトでのアクセス割合

「川の水位情報」
<https://k.river.go.jp>



河川カメラのライブ配信

- 各地方整備局等において、河川状況の切迫性を伝えるため、メディアと連携したラカメラのライブ配信を実施
- また、YouTubeによる河川カメラのライブ動画を令和元年6月より施設が整った整備局ごとに公開。現在、5地方の河川カメラ 348台のライブ動画を各地方整備局の水災害予報センターのチャンネルで配信中。



台風第19号における配信状況
(INC長野ケーブルテレビ)



(令和2年7月7日 NHK「ニュース」より)



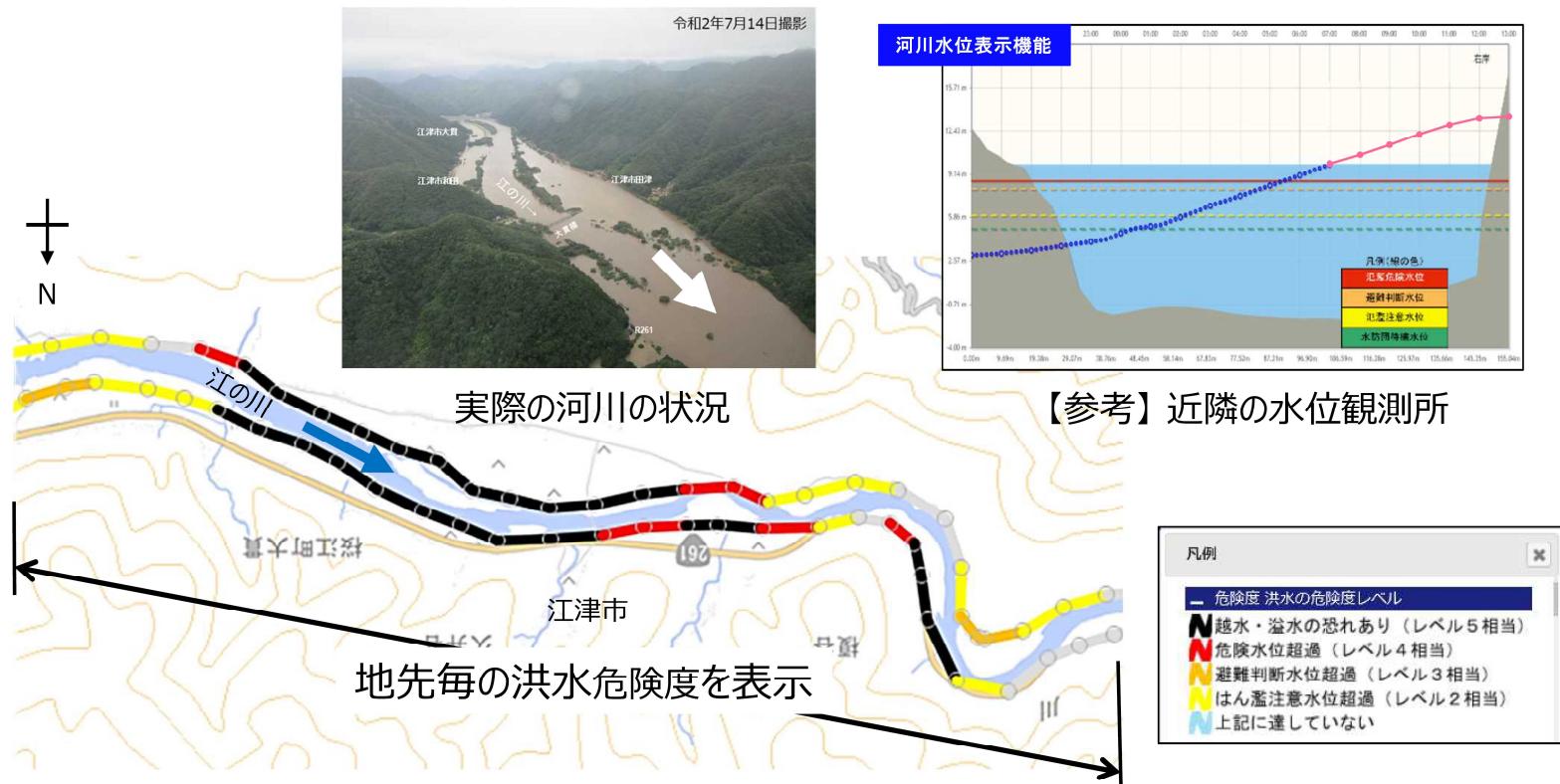
YouTubeによる河川ライブカメラの配信
(令和2年7月7日)

- ＜メディアからの意見（住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト）＞
- 河川の状況を報道するにあたって、映像がほしい。映像があることで臨場感をもって伝えることができる。
 - 国交省のカメラは映像が安定しており河川の様子がわかりやすいので、メディアで活用が広がっている。
 - YouTubeでの配信は、ネットメディアでも活用しやすいため、今後連携を進めて行きたい。

水害リスクラインによる洪水危険度の提供

- 観測所地点の水位から上下流連続的な水位をリアルタイムで計算し、堤防の高さとの比較により地先毎の洪水危険度を把握・表示する「水害リスクライン」により、災害の切迫感をわかりやすく伝える取組を推進。
- 令和2年7月豪雨による出水の際にも、水位計がない地先において、洪水危険度の情報を提供。

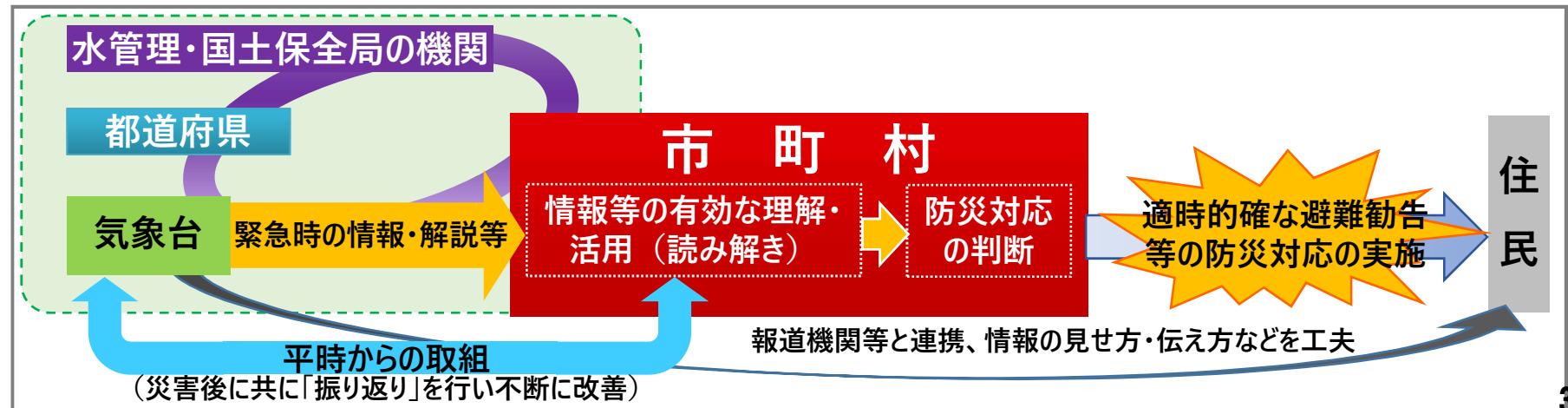
令和2年7月豪雨における表示（江の川水系江の川の例）



「伝える」情報から「伝わる」情報へ

ただ情報を発表するのではない。

情報を通じて危機感を確実に伝え、防災行動につなげる。

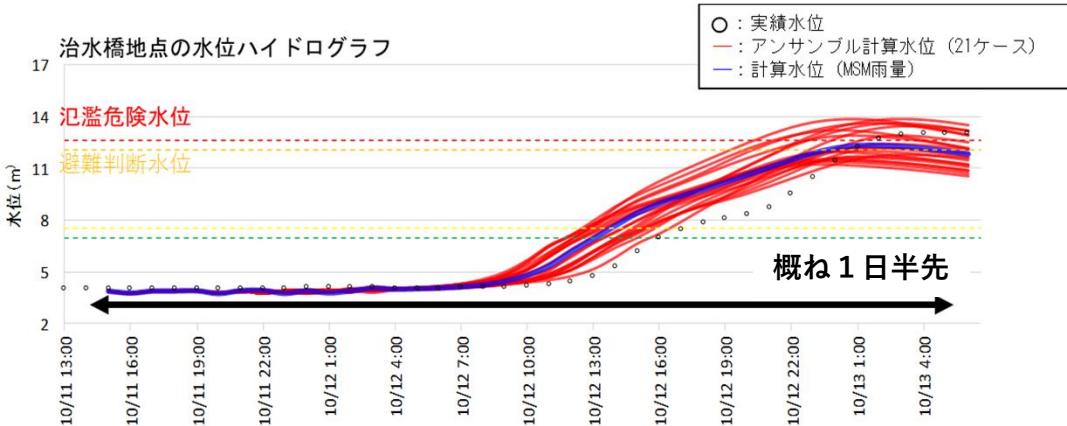


今後の取組

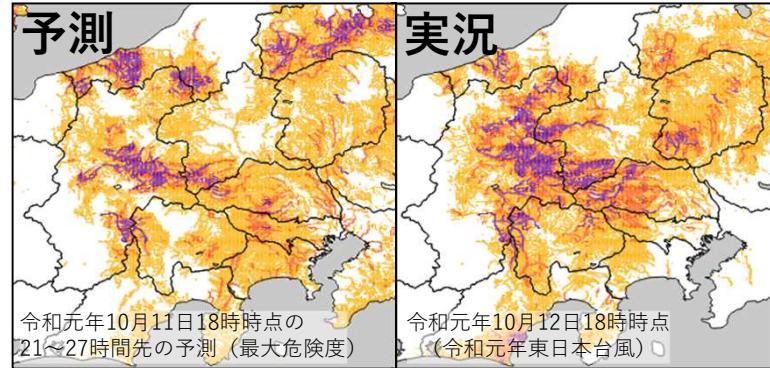
- ・全国地域で、合同記者会見による呼びかけを推進
- ・河川事務所と気象台の連携を強化し、
⇒より効果的な地方公共団体へのホットラインの実現へ
- ・雨量予測・水位予測の高度化を推進し、
⇒表示の統合など、分かりやすく「伝わる」情報の提供を追求
⇒より長時間先の予測を災害対応や避難に活用へ

■長時間先の水位予測の技術開発

イメージ



■1日先の洪水警報の危険度分布(再掲)



※ いずれも洪水予報河川の外水氾濫は対象としていない。

※ 予測精度を考慮した表示方法の具体については今後検討。

5kmメッシュの解像度で提供される降雨予測を活用した約1日半先までの水位予測を試行